

経営課題2

みんなで支えあう福祉のまちづくり

【地域福祉力の向上】

課題認識

- 高齢化などにより支援を要する方の増加が見込まれることから、支援が必要な方への正しい理解の促進を図りつつ、「発見」「見守り」「支える」ための地域特性に応じた支援体制の構築が必要である。
- 多様な職種間の連携によるネットワークづくりや健康寿命の延伸を図るための取組を区民に広げる必要がある。

主な戦略（課題解決の方策）

- ◆ 「地域福祉活動コーディネーター」が地域の福祉活動の担い手とともに、各地域において専門支援機関等との連携を図りながら見守りや相談ができる体制を機能させる
- ◆ 寝たきりにならないようにするための運動習慣や、認知症の発症を予防（遅延）する取組の支援

アウトカム指標（経営課題の進捗度合を示した指標）

指標	5年度実績	目標
地域福祉活動コーディネーターが関係機関と連絡調整した活動件数	29.6件 (達成)	令和5年度以降 継続的に1地域あたり 月平均25件以上



【いきいき百歳体操】

経営課題2

みんなで支えあう福祉のまちづくり

【地域福祉力の向上】

自己評価

コロナ禍での活動制限も徐々に緩和され、地域福祉活動コーディネーターによる個別訪問や声かけなどを活発に実施できた。また、それに伴い相談件数も増加するなか、専門支援機関と連携を図り、地域の窓口として中心的な役割を担い、地域福祉力の向上に貢献した。

健康寿命の延伸については、いきいき百歳体操などの取組をコロナ禍の収束に伴い各地域で再開できるよう支援を行った。

(取組実績)

- 各地域の課題抽出や分析を行い、地域の福祉活動への支援など 5地域
- 地域の特性に応じた緩やかな見守りについて、連絡会等で共有・情報発信
- 地域における「いきいき脳活サポートマニュアル」等を用いた取組 60か所
- いきいき脳活検討会(5回)、いきいき脳活研修会(6回)、認知症予防講演会(1回)を実施
- いきいき百歳体操 繼続箇所 52か所
- いきいき百歳体操 サポーター養成者数 18人



今後の方針

地域福祉活動コーディネーターが地域での福祉活動を中心に担うためには、広報紙等を活用した認知度向上をめざすとともに、毎月の連絡会等を活用し、各々の活動内容や手法を共有することにより充実した活動につなげる必要がある。

また、地域活動に関わりながら、新たな担い手の発掘・育成にも力を入れることで地域福祉力の向上に取り組んでいく。

寝たきりにならないようにするための運動習慣や、認知症の発症を予防(遅延)する取組の支援を継続していく。

経営課題3

子どもが元気で育つまちづくり

【子育て支援の充実】

課題認識

- ▶ 「重大虐待ゼロ」をめざし、「未然防止」「早期発見」「早期対応」の3つの観点から体制を充実させる必要がある。
- ▶ 複合的な問題を抱えている子育て世帯も多いことから、学校における教育分野の支援と区役所における保健福祉分野の支援を連携し、総合的な支援を実施する必要がある。

主な戦略（課題解決の方策）

- ◆ 児童虐待防止・早期発見への取組や子育てに悩む親への支援
- ◆ 複合的な課題を抱える子育て世帯に対する総合的な支援と高校生活の定着支援

アウトカム指標（経営課題の進捗度合を示した指標）

指標	5年度実績	目標
子どもサポートネット支援対象者件数	357件 (達成)	令和5年度以降継続的に300件以上



【親子ひろば】



経営課題3

子どもが元気で育つまちづくり

【子育て支援の充実】

自己評価

虐待を未然に防止し、深刻化させないために要保護児童等のアセスメント(分析・評価)を行い、支援が必要なケースに対しフォローを実施できた。

子育てしやすい環境をめざし、子育て中の親の孤立化を防ぐための情報発信や、支援者や団体とのつながりを深める場づくりに取り組むことができた。

複合的な課題を抱える子どもやその世帯について、関係機関等と連携しながら適切な支援制度等につなげた。

(取組実績)

- 要保護児童対策地域協議会実務者会議の定例開催や子どもサポートネット事業による支援を実施
- HPやLINE等、インターネットを利用した子育てに関する情報発信の充実
月5回以上更新
- 地域連携会議の開催 22か所実施
- 支援が必要な高校生への個別支援 年間27件
- 高校生支援に関する検討会議やフォーラムを開催



【高校生支援の検討会議】

今後の方針

児童虐待を未然に防止するためには、引き続き、ハイリスク妊婦や乳幼児健診未受診者の把握をはじめ、要保護児童等とその世帯へのタイムリーな支援を粘り強く継続する必要がある。

子育てしやすい環境をめざし、情報発信をはじめ、複合的な課題を抱える児童及びその世帯に寄り添う支援を継続する必要がある。

複合的な課題を抱える高校生が増加しており、卒業に向けた支援と福祉的な支援のバランスに留意しながら、関係機関と連携した支援を継続していく。

経営課題3

子どもが元気で育つまちづくり

【子どもの学習意欲の向上】

課題認識

子どもたちが経済的な理由や家庭環境に左右されることなく、魅力や個性を伸ばし、学習習慣の定着を通じて「生きる力」を身につけることができるよう、子どもたちの学びを支援する必要がある。

主な戦略（課題解決の方策）

読書運動や清掃活動など、様々な活動に対する表彰や学力サポート事業を実施

アウトカム指標（経営課題の進捗度合を示した指標）

指標	5年度実績	目標
学校に行くのは楽しいと感じる生徒の割合	76.6% (達成)	全国学力・学習状況調査で令和7年度末までに76%以上



【令和5年度 区長表彰】



経営課題3

こどもが元気で育つまちづくり 【子どもの学習意欲の向上】

自己評価

「学校に行くのは楽しいと思う」の質問に対し、「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合は、昨年度実績の76.4%からはほぼ横ばいで、継続して目標を達成できている。

また、読書ノートの活用については、表彰者数・表彰率ともに昨年度より向上しており、学習意欲・基礎学力の向上につながる取組みを広げることができている。

ただし中学生については、表彰者数・表彰率ともに昨年度より増加しているものの、小学生の数値を大きく下回っていることが課題である。

(取組実績)

- 読書ノートを区内の市立幼小中学の児童・生徒に配布
- 読書ノートを活用し、一定水準を超えた児童・生徒を表彰
- がんばる小・中学生について個人及びグループを表彰



【ひらちゃん読書ノート・平野区読書ノート】

今後の方針

引き続き、がんばる小学生・中学生区長表彰など、こどもたちが様々な活動を通じて学校生活を楽しいと感じられるよう、学校と連携し取組みを継続していく。

読書ノートについては、生徒から集めた意見を参考に、取組み周知の充実や達成記念品の見直し等を行い、中学生を中心に表彰者数・表彰率のより一層の向上をはかっていく。

令和7年度運営方針の策定にむけて

令和5年度はコロナ禍の収束に伴い、ようやく様々な活動が再開された1年となりました。

一方で、平野区では単身高齢者世帯の増加や、少子高齢化により人口減少が続いているなどの背景から、社会的孤立や地域活動の担い手の減少といった課題への対応が求められています。

あらためて平野区将来ビジョンに掲げる「笑顔輝くまち ひらの」の実現に向けて、「安全・安心のまちづくり」、「みんなで支えあう福祉のまちづくり」、「こどもが元気で育つまちづくり」これら3つの柱となる施策について、人や地域などあらゆる「つながり」を大切にしながら様々な取組を進めてまいります。

持続可能でよりよい区政の実現のために、委員の皆様からのご意見をお願いします。



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

